

# 向田遺跡 (むかえだいせき)

所在地：稲敷郡阿見町小池 65-136 番地ほか  
調査期間：平成30年10月1日～平成31年1月31日  
調査面積：7,538 m<sup>2</sup>  
委託者：茨城県竜ヶ崎工事事務所  
調査原因：主要地方道土浦竜ヶ崎線バイパス整備事業  
調査機関：公益財団法人茨城県教育財団 (阿見事務所)  
Tel: 029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

## 1. 遺跡の概要

向田遺跡は、阿見町の南西部に位置し、乙戸川右岸の標高約23mの台地縁部に立地しています。今回の調査は、主要地方道土浦竜ヶ崎線バイパス整備事業に伴うもので、調査区は台地を南北に縦断するように位置しています。周辺の遺跡としては、当遺跡の南西部に反子遺跡、乙戸川の対岸の北側に実穀古墳群、南西側に下小池遺跡があります。



向田遺跡と周辺の遺跡  
『茨城県デジタルマップ』より

## 2. 調査の成果

今回の調査では、縄文時代早期前葉(約10,000年前)の遺物包含層や古墳時代後期(約1,400年前)の竪穴住居跡などを確認しました。古墳時代後期の竪穴住居跡6軒からは、地元で作られた土師器の坏や甕といった日常的な土器のほか、ミニチュア土器と呼ばれる小形の土器が出土しました。これらは住居跡の床面から出土しており、住居を使用しなくなった際に行った儀礼に使用されたことが考えられます。縄文時代の遺物包含層では、谷が埋まる窪地の段階で土器が棄てられた様子が確認できました。



【住居跡の床面から出土したミニチュア土器と甕】



次回の現地説明会は1月20日(日)に石岡市とつくば市で開催予定です。発掘調査の成果を是非ご覧ください。



【竪穴住居跡から出土した様々な土器】



【竪穴住居の施設】



【竈に掛けられていた甕】



【遺物包含層から出土した縄文土器】

- 古墳時代の竪穴住居跡
- 縄文時代の遺物包含層

この資料は、調査中の情報であり、最終的な結果ではありません。資料の引用・掲載はご遠慮願います。